



最初にお読みください

AT-TQ2403 リリースノート

この度は、AT-TQ2403をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 3.4.0

2 本バージョンで追加された項目

ファームウェアバージョン **3.1.1** から **3.4.0** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加されました。

- 2.1 「ステータス」/「WDS」画面を追加しました。これにより、WDS 接続の接続状態、接続相手のアクセスポイントの RSSI 信号強度（Received Signal Strength Indication）を表示できるようになりました。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「WDS」](#)

- 2.2 「詳細設定」/「イーサネット設定」画面に「高速ローミングサポート」ラジオボタンを追加しました。これにより、「高速ローミングサポート」の「有効」「無効」を設定できるようになりました。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

- 2.3 「セキュリティー」画面、「詳細設定」/「VWN」画面の「IEEE802.1x」「WPA パーソナル」「WPA エンタープライズ」に次のキー更新間隔を設定する機能を追加しました。
(1) ブロードキャストキー更新間隔（WPA のみ）、(2) キー更新間隔（IEEE802.1x のみ）、(3) フレーム送受信数によるキー更新

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「セキュリティー」](#)

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 2.4 「詳細設定」/「無線」画面で「無線 1」（IEEE 802.11a）の「ステータス」を「オン」にすると、「屋外での使用が禁止されています」という旨のメッセージボックスが表示されるようにしました。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

3 本バージョンで仕様変更された項目

ファームウェアバージョン **3.1.1** から **3.4.0** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が仕様変更されました。

- 3.1 「詳細設定」/「無線」画面の「ステータス」のデフォルトを「オン」から「オフ」に変更しました。無線通信を行うためには「オン」にしなければなりません。

 [リファレンスマニュアル](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

- 3.2 「セキュリティー」画面、「詳細設定」/「VWN」画面の「SSID のブロードキャスト」のデフォルトを「チェックあり」（本製品の無線電波を受信できる第3者がSSIDを知ることができます）から「チェックなし」（管理者からSSIDを教えてもらわなければ、本製品に接続することはできません）に変更しました。

 [リファレンスマニュアル](#) / [「セキュリティー」](#)

 [リファレンスマニュアル](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 3.3 「詳細設定」/「無線」画面、「詳細設定」/「VWN」画面の「最大ステーション数」のデフォルトを「2007」から「50」に変更しました。

 [リファレンスマニュアル](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

 [リファレンスマニュアル](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 3.4 オンラインヘルプの形式をフレームフォーマットに変更しました。

 [リファレンスマニュアル](#) / [「設定画面へのアクセス」](#) / [「オンラインヘルプ」](#)

- 3.5 「保守管理」/「設定」画面の「バックアップ」で保存される設定ファイルの config version を変更しました。

 [リファレンスマニュアル](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **3.1.1** から **3.4.0** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 本製品の起動中にトラフィックを受信していると、起動しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 無線クライアントのローミングを知らせる L2 アップデートフレームのブロードキャストを受信すると、その処理過程でメモリーリークが発生していましたが、これを修正しました。
- 4.3 VWN 機能を有効にすると、クラスター機能が動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 次の条件で WDS を構成すると、本製品を再起動したとき、WDS 接続ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
・暗号化方式に WPA を使用

- ・ 3 台以上の本製品で WDS を構成
- ・ 1 台の本製品が他の 2 台以上の本製品に「WDS STA」として接続

- 4.5 VWN 機能が有効な状態で、MAC フィルタリングに 1024 件の無線クライアントを登録し、クラスター機能を有効にすると、無線クライアントのリストが約 900 件までしか同期しませんでした。これを修正しました。
- 4.6 「セキュリティ」画面の「モード」が「IEEE802.1x」または「WPA エンタープライズ」のとき、内蔵 RADIUS を使用するよう設定すると、「クラスター」/「セッション」画面の「ユーザー」に「1」と表示されていましたが、正しいユーザー名を表示するように修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **3.4.0** には、以下の制限事項があります。

5.1 NAP (Network Access Protection)

NAP (Network Access Protection) 環境で無線クライアントから本製品に接続しているとき、ネットワーク障害や本製品の電源断などによる無線クライアントの切断が起きた場合、障害の復旧後に再度同じログイン名で接続を試みると RADIUS サーバー (Windows Server 2008) の認証に失敗します。Windows Server 2008 にドメイン名を含めた UserID を設定するとこの現象は発生しません。

5.2 イーサネット設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「WDS」](#)

「イーサネット設定」画面の「無線 LAN からの本体宛アクセスの禁止」を「有効」にしても、無線クライアントからの SNMP SET が可能です。「SNMP」画面の「SNMP リクエストの送信元を制限」を有効にし、不特定の無線クライアントからの SET を回避してください。

5.3 無線設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

「バースト時の速度制限」に「速度制限」で設定した値以下の値を設定できてしまいます。

5.4 VWN について

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「WPA エンタープライズ」と「ダイナミック VLAN」を併用している場合、無線クライアントに VLAN 間のローミングが発生すると無線クライアントとの接続が切断されます。無線クライアントが再接続するために無線クライアントは、アクセスポイントに自動的に接続する設定にしてください。
- IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのブロードキャストキーとセッションキーの更新が同一のタイミングで実行されます。
- (1) VWN のどれかを有効にして「VLAN ID」を設定した後、(2) その VWN の「VLAN ID」を別のものに変えてから、(3) 他の VWN に (1) で設定していた「VLAN

ID]を設定しようとするとき「VLAN ID」が空欄となり設定できません。その場合は、設定できないVWNの「有効」のチェックをいったん外して「適用」ボタンをクリックし、再度チェックを入れてから設定してください。

5.5 クラスタ

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスタ」](#) / [「アクセスポイント」](#)

本製品を新たにクラスタに追加する場合は、クラスタを開始していない状態でネットワークに接続してから「アクセスポイント」画面の「クラスタの開始」ボタンをクリックしてください。クラスタが開始された状態で、ネットワークに接続すると設定の共有が行われなかったことがあります。

5.6 セキュリティー

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「セキュリティー」](#)

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「セキュリティー」画面や、「VWN」画面の各VWNのセキュリティーの「IEEE802.1x」「WPAエンタープライズ」において、RADIUSキー（プライマリー）を空欄に設定するとRADIUSサーバーへの問い合わせに「secret」を使用しますが、セカンダリーのRADIUSキーを空欄にすると「secret」が使用されません。
- 「セキュリティー」の「モード」を「WPAパーソナル」から「スタティックWEP」に変更し「適用」ボタンをクリックしてもその設定内容が動作に反映されません。「適用」ボタンのクリックにより画面が再表示された後、もう一度「適用」ボタンをクリックするが、本製品を再起動することにより設定が動作に反映されます。
- 「セキュリティー」画面の「IEEE802.1x」の「キー更新間隔」の設定が適用されません。適用するには、本製品を再起動してください。

5.7 WDS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「WDS」](#)

Internet Explorer Version 8の「最新の情報に更新」ボタンで「ステータス」/「WDS」画面を再読み込みすると、5秒ごとの自動更新が行われなくなります。その場合は、Web設定画面の「ステータス」/「WDS」メニューをクリックしてください。

5.8 イベント

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)

DFSによるチャンネル変更の際に、誤ったチャンネル番号がはいったフレームを送信することがあります。また、「イベント」ページに誤ったチャンネル変更通知のログが表示されます。

5.9 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

「送信 / 受信」画面で表示されるスループットの値が正しくありません。

5.10 QoS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「QoS」](#)

cwMin（最小コンテンツウィンドウ値）と cwMax（最大コンテンツウィンドウ値）に同じ値を入力することができます。値を変更する場合、cwMin < cwMax となるように入力してください。

5.11 SNMP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

ブロードキャストやマルチキャストのパケットの送受信で ifInNUCastPkts、ifOutNUcastPkts ではなく ifInUcastPkts、ifOutUcastPkts がカウントアップします。

5.12 フルパス名

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が 254 文字までしか入力することができません。

5.13 設定のリストアとバックアップ

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

バックアップした設定ファイルをテキストエディターなどで編集した後、本製品にリストアしないでください。

5.14 ファームウェアのアップグレード/ダウングレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

- ルーター経由でファームウェア更新を行うと、動作状況を把握できなくなる場合がありますが、約 4 分後にはファームウェアが更新され正常に起動します。設定を続ける場合は、再度本製品の Web 設定画面に接続してください。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜けなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。

5.15 Web 設定画面

- 「無線」画面の「ステータス」ラジオボタンを「オン」→「オフ」→「オン」のように変えると、初期状態ではグレイアウトしていた「ブロードキャスト/マルチキャスト速度制限」の「速度制限」と「パースト時の速度制限」の入力フィールドが入力可能な状態に変わります。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

- 「イベント」画面の「ログのリレー」チェックボックスを有効にした後で無効にすると、入力可能だった「リレーホスト」と「リレーポート」フィールドがグレイアウトします。これらのフィールドに値を入力するときは、「ログのリレー」チェックボックスを有効にした状態で行ってください。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)

- VWNのセキュリティが「WPA エンタープライズ」の場合、「WPAバージョン」の「WPA」のみが有効となっているときに「WPA」のチェックを外すことによって自動的に「WPA2」が有効になると、「事前認証を有効にする」がグレイアウトして設定できなくなります。その場合は「WPA」「WPA2」の両方を有効にし、「事前認証を有効にする」の設定を変更してから「WPAバージョン」を設定してください。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「VWN」画面の各VWNのセキュリティ「WPA エンタープライズ」で「事前認証を有効にする」を無効にすることができません。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

6 ファームウェアのアップグレード

重要：アップグレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードは、必ず有線LANポートに接続したコンピューターから実行してください。
また、アップグレード中は、本製品のWeb設定画面へのアクセスや、有線LANポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。アップグレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

6.1 V.1.1.2 より前のバージョン→V.3.4.0 アップグレード

V.1.1.2 よりも前のバージョンからのV.3.4.0へのアップグレードは、弊社ホームページからV.1.1.2のファームウェアをダウンロードし、「保守管理」/「アップグレード」画面でV.1.1.2にアップグレードした後に、次の「6.2」を実行してください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

6.2 V.1.1.2 → V.3.4.0 アップグレード

重要：専用書き換えプログラムを実行するコンピューターは、本製品と同一のネットワークに接続してください。ルーターを経由すると、専用書き換えプログラムが正常に動作しないことがあります。

V.1.1.2からのアップグレードは、下記の専用書き換えプログラムでV.3.1.1にアップグレードした後、Web設定画面でV.3.4.0にアップグレードします。

TQ Firm Upgrader_V112_to_V311.zip

プログラムは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>

アップグレードの手順は、以下のとおりです。

(注) V.2.1.x で作成された設定のバックアップファイルを、V.1.1.2の本製品にリストアした後、TQ Firm Upgrader.exe を実行すると途中で初期化され、バージョンアップに失敗します。

1. Windows XP がインストールされたコンピューターを用意してください。専用書き換えプログラムは、Windows XP のみで実行可能です。
2. 「ユーザー管理」画面において、ユーザー名に記号「< > ' " &」を使用している場合、アップグレードを実行する前に、これらが含まれないユーザー名に変更してください。
3. 安全のために設定のバックアップを取ってください。
4. 専用書き換えプログラムを解凍し、「TQ Firm Upgrader.exe」をダブルクリックしてください。⁽¹⁾

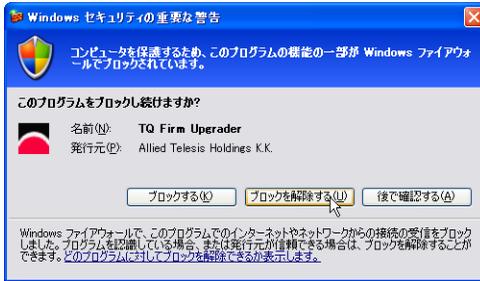


5. 「IP Address」にアップグレード対象となるAT-TQ2403のIPアドレスを入力し、「Password」に管理者 manager のパスワードを入力して、「OK」をクリックしてください。

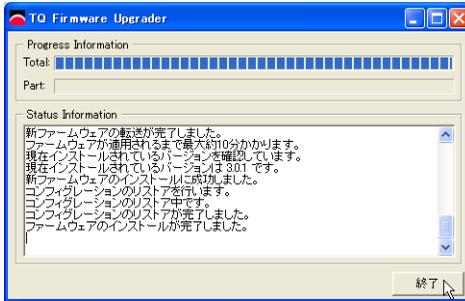


(1) 手順 4～8 の図版のフォルダー名やログが旧バージョン「V.3.0.1」となっております。「V.3.1.1」に読み替えてくださいますようお願いいたします。

6. 下記が表示される場合は、「ブロックを解除する」をクリックしてください。



7. ファームウェアが適用されるまで、最大約 20 分かかります。アップグレードが完了したら、「終了」をクリックしてください。



重要：ファームウェアのアップグレードの実行中は、本製品の電源をオフにしたり、再起動しないでください。アップグレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

8. ログファイルが保存されます。
ログファイルは「IP アドレス.log」という名前を持ちます。



9. V.1.1.2のときの設定はV.3.1.1に引き継がれます。
また、アップグレード前に管理者ユーザー（manager）のパスワードが9文字以上だった場合は、本製品の設定画面にログインする際に、アップグレード前に設定されていたパスワードの8文字目までを入力してください（パスワードは、先頭8文字に変更されます）。
専用書き換えプログラムで、V.1.1.2→V.3.1.1のアップグレードを行うと、SNMPマネージャーでSETされていた項目（ロケーションなど）がリセットされます。SNMPを使用していた場合は、ロケーションなどを再設定してください。
10. 弊社ホームページからV.3.4.0のファームウェアをダウンロードし、「保守管理」/「アップグレード」画面でV.3.4.0にアップグレードしてください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

6.3 V.2.1.x以降→V.3.4.0アップグレードの補足

V.2.1.x以降からV.3.4.0へのアップグレードは、本製品のWeb設定画面で行います。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

ただし、V.2.1.0からV.3.4.0へのアップグレードの場合は、アップグレードを行う前に、以下の2点を実行してください。

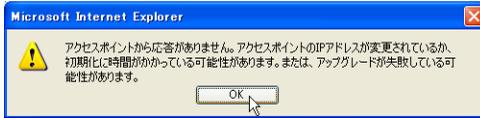
1. 「ユーザー管理」画面において、ユーザー名に記号「< > ' " &」を使用している場合、これらが含まれないユーザー名に変更してください。
2. 管理者ユーザー（manager）のパスワードとして、9文字以上の文字列を設定している場合は、8文字以内のパスワードに変更してください。

管理者ユーザーのパスワードとして、9文字以上の文字列を設定したまま、アップグレードを行ってしまった場合、以下の手順で対応してください。

1. 「リファレンスマニュアル」/「保守管理」/「アップグレード」の手順7の最後の段階で、パスワードを要求するダイアログボックスが表示されます。



そのまま、4～5分待ち、下記のエラーメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックし、メッセージボックスを閉じてください。



2. 手順1のパスワードを要求するダイアログボックスの「キャンセル」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じてください。閉じない場合は、閉じるまで「キャンセル」ボタンをクリックしてください。
3. Web ブラウザーを終了してください。
4. Web ブラウザーを起動し、本製品の設定画面にログインします。管理者ユーザー（manager）のパスワードとして、アップグレード前に設定されていたパスワードの8文字目までを入力してください。

7 マニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル（613-001685 Rev.A）、ユーザーマニュアル（613-001037 Rev.D）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>